

令和元年度卒業生への挨拶

ご卒業、おめでとうございます。本年度は、大変なことになってしまいましたね。いつもなら、「穏やかな春の日差しの中、この良き日にご卒業おめでとうございます。」となるのですが、穏やかではないですね。しかし、みなさんはこの伝統ある大連日本人学校を卒業することには変わりはありません。誇りをもってください。

さて、卒業生の皆さん、どんなことが思い出として残っているでしょうか。苦しいけれどみんなで登った大黒山、声をからして応援した運動会、北京や西安への修学旅行、全校で取り組んだなかよし集会、プレゼンテーションソフトを駆使しての中学部の総合発表会、そして美しいハーモニーの小学部のウインターコンサートなど、いろいろな思い出が心の中でよみがってくることでしょう。

この大連日本人学校での思い出を胸に、次のステージでも頑張ってもらいたいと思います。

しかし、平凡で特に心に残らなかった日もあったことでしょう。その日があったからこそ、六年あるいは九年という歳月が流れたわけです。いい換えれば、平凡で特に心に残らなかった日の方が、思い出に残る特別な日よりとても多かったということです。そして、この平凡な日々をただなんとなく過ごしてしまっていたことはなかったでしょうか。

時間は、皆さんに平等にやってきます。この平等な時間を、

ただなんとなく過ごしてしまうのか、1日10分でも有意義に過ごすのか、この差は大きなものになるのではないのでしょうか。自分では、操作することができない時間。しかし、過ごし方によっては、時間の価値も違えば、感じる長さも違ってきます。

「今一瞬を大切に！」して、「今一瞬を大切に！」して、自分が納得できる有意義な日々を過ごし、後悔の無い人生を歩んでほしいと思います。

そして、自分の目標に向かって、諦めずに頑張してほしいと思います。時にはダメかもしれない、できないかもしれないと思うことがあるかもしれませんが、ダメだと思わずに、きっとできるんだと、自分に対して肯定的な語りかけをしてください。自分にできることを懸命に頑張り、ひたむきに努力すれば、目標にたどり着くことができるはずです。また、みなさんは一人ではありません。今までも友達や周りの人たちの支えがあったことでしょう。特にここまで大きく育ててくださった、家族の存在は大きかったことでしょう。また、今までみなさんの成長を願い、支援してくださった多くの職員のことにも忘れないでください。

これまで大連日本人学校の生活で学んだことに自信をもち、「今一瞬を大切に！」して、自分が納得できる有意義な日々を過ごして、世界で活躍する人になってほしいと願っています。

令和2年3月14日

大連日本人学校 校長 伊藤千秋